

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**(仮称)右京区梅津神田町計画新築工事**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
<b>1.1 騒音</b>										
1 室内騒音レベル										
2 設備騒音対策										
<b>1.2 遮音</b>										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
<b>1.3 吸音</b>										
<b>2 温熱環境</b>										
<b>2.1 室温制御</b>										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ゾーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
<b>2.2 湿度制御</b>										
<b>2.3 空調方式</b>										
<b>3 光・視環境</b>										
<b>3.1 昼光利用</b>										
1 昼光率 ●自然 A(全国版準用) 共用部分:3.21%、住居部分: 6.70%										
2 方位別開口 ●自然 B(推奨内容)										
3 昼光利用設備 ●自然 B(推奨内容)										
<b>3.2 グレア対策</b>										
1 照明器具のグレア ●自然 B(推奨内容) 住居部分: 庇+カーテン										
2 昼光制御 ●自然 B(推奨内容)										
3 映り込み対策										
<b>3.3 照度</b>										
<b>3.4 照明制御</b>										
<b>4 空気質環境</b>										
<b>4.1 発生源対策</b>										
1 化学汚染物質 F☆☆☆☆を内装材・下地材共に採用										
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
<b>4.2 換気</b>										
1 換気量 ●自然 A(全国版準用) 窓面積/床面積:0.295										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4 給気計画										
<b>4.3 運用管理</b>										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>										
1 広さ・収納性 ●大切 D(独自基準) 住居部分:100Mbitブロードバンド対応										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
<b>1.2 心理性・快適性</b>										
1 広さ感・景観 ●とも C(独自加点)										
2 リフレッシュスペース ●とも D(独自基準)										
3 内装計画										
<b>1.3 維持管理</b>										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
<b>2.1 耐震・免震</b>										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>										
1 躯体材料の耐用年数 ●大切 A(全国版準用) 住宅性能表示基準劣化等級3相当を満足										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

2.4 信頼性					2.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり					-	-	3.2	0.50	
1	階高のゆとり			住居部分:階高2.96m	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)		-	-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	2.6
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電を設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					2.0	0.40	-	-	2.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)					#VALUE!	5.0	-	-	
集合住宅の評価						2.0	-	-	
4 効率的運用					-	-	-	-	-
4.1	モニタリング				-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					2.2	0.15	-	-	2.2
1.1	節水				1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無					-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.63	-	-	3.5
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	グリーン購入品ビニル床タイル、磁器質タイル、地域産木材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体+LGS+仕上材、躯体と仕上材が容易に分別	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.68	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ODP=0、GWP=50未満の発泡材を使用	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮					3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮					2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			ガイドラインの1部を満足、広告物照明なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる